

参考資料 <用語集>

頭文字	用語	よみがな	語句説明	出典資料 番号
あ	亜高山（亜高山帯）	あこうざん(あこうざんたい)	山岳の垂直的な生活帯または植生帯の一つで、山地帯と高山帯との間、すなわち山地帯の上限から森林限界までの部分。	①
	アセス法	あせすほう	環境影響評価法。	—
	荒起し	あらおこし	耕起。土を掘り起こしたりして田んぼを耕す作業。	—
い	一年生草本	いちねんせいそうほん	春発芽し、夏から秋にかけて開花結実し、その年のうちに枯死する草本。	②
お	横断誘導植栽	おうだんゆうどうしょくさい	動物の横断を目的に設置した道路横断施設等へ誘導するための植栽。ボックスカルバートやオーバークリッジ等の道路横断施設の出入り口や施設上、橋梁下等に植栽を行う他、鳥類が道路上空の安全な範囲での横断を誘導するためにのり肩に樹木植栽を行う例がある。	—
か	解体場	かいたいば	餌を解体する場所。捕獲した鳥類の羽根や頭部を落とすための場所。	—
	開放水面	かいほうすいめん	上部が開けた水面。	—
	外来種	がいらいしゅ	導入（意図的・非意図的を問わず人為的に、過去あるいは現在の自然分布域外へ移動させること。導入の時期は問わない。）によりその自然分布域（その生物が本来有する能力で移動できる範囲により定まる地域）の外に生育又は生息する生物種（分類学的に異なる集団とされる、亜種、変種を含む）。	⑩
	外来草本	がいらいそうほん	外来生物の草本。	—
	萼筒	がくとう	サクラ属のように萼片が癒合し、筒形や皿形の部分ができる場合、その部分を萼筒という。	④
	萼片	がくへん	花の最外輪にある花葉の一つ一つを指し、内側の花葉と質的に異なる場合をいう。萼は萼片を全部指す。	④
	花茎	かけい	草本植物の地上茎の一つ。地表面から伸びて先に花や花序を頂生し、それ自体普通葉をつけない茎をいう。	④
	花崗岩	かこうがん	完晶質で粗粒の石英、長石および黒雲母を主造岩鉱物とする岩石。火成岩のうち深成岩に属し、有色鉱物の種類によって種々の名称をもつ花崗岩に分布される。風化してまき土（風化残積土）になる。国内に広く分布し、建設用石材として多用される。	⑤
	花序	かじょ	植物体のシュート系（苗条系。単一の茎の分枝から始まる茎と側枝の集団。）のうち、次々と花をつける生殖シュート系。	①
	架巢高	かそうだか	巣が架かっている高さ。	—
	花柱	かちゅう	柱頭と子房をつなぐ部分。通常は柱状。	④
	活着	かっちやく	移植した植物が、根付いて生長を始めること。	—
	果胞	かほう	スゲ属の雌しべを包む袋状の花被。	—
	環境容量	かんきょうようりょう	広域には、環境の質的要素が悪影響を受けない限度で包容できる人間や動物の活動量。	⑤
寒冷紗	かんれいしや	目の粗い極めて薄い綿布または麻布。	⑥	
き	忌避行動	きひこうどう	嫌って避ける行動。	—
	キャリングキャパシティ	きゃりんぐきゃぱしてい	環境収容力。ある地域（空間）で、特定の種が維持できる最大個体数。	—
	球巢	きゅうそう	球状の巣。	—
	胸高直径	きょうこうちよっけい	立木の太さを測る基準としての高さ。人の胸の高さに相当する地上から1.2m（北海道及び外国では1.3m）。	⑥
	強熱減量	きょうねつげんりょう	主として土や汚泥中の有機物量などを表すために用いられる指数。灼熱減量ともいう。	⑤
	菌核病	きんかくびょう	菌類で、菌糸が集まって生じた、黒色の堅い塊。	⑥
	菌従属栄養植物	きんじゅうぞくえいようしょくぶつ	菌寄生植物、腐生植物。陸上植物のうち、自身では光合成を行わず、必要な炭素源を菌根菌からの供給に頼って生活をする植物。周辺の光合成を行う植物と、菌根菌を共有することで、菌根菌を介して周辺植物から炭素源を獲得する様式と、一般的には腐生菌として存在している菌類を菌根菌とすることで、周辺の腐植から炭素源を得る様式の二つが知られている。	①
く	茎挿し	くさざし	挿し木の手法の一つ。茎を挿す方法。	—
	栗石	くりいし	玉石または割石の小さいもの。擁壁等の裏込めに用いられる。	⑤
け	ケト土	けとつち	川や池に堆積した植物由来の土。泥状。	—
	堅果	けんか	複数の心皮からなり、果皮が木質になって1個の種子を包むもの。カシ属、ブナ属、クリ属、ハシバミ属等がある。	④

参考資料 <用語集>

頭文字	用語	よみがな	語句説明	出典資料 番号
こ	コア採取	こあさいしゅ	土、岩石、硬化コンクリートなどから、供試体をくりぬくこと。	⑤
	降河回遊魚型	こうかかいゆうぎょがた	海で生まれた後、淡水域に入って成長し、産卵のために再び海へ下る魚。ウナギが代表的。	②
	高茎草本	こうけいそうほん	茎の背が高い草本。	—
	行動圏	こうどうけん	動物の個体または群が行動する範囲。利用形態から、繁殖場所、餌場等に分けることができる。	—
	高利用域	こうりょういき	つがいが高頻度で利用する範囲。重要な採食場やそこへの移動ルートとなっている範囲を含む。	③
	国土数値情報	こくどうすうちじょうほう	国土計画の策定や実施の支援のために整備されたデータ。行政区域、鉄道、道路、河川、地価公示、土地利用メッシュ、公共施設など、国土に関する様々な情報を整備している。	⑩
	コリメート撮影	こりめーとさつえい	コリメート法による撮影。	—
	コリメート法	こりめーとほう	望遠鏡の接眼レンズにカメラやビデオを付けて撮影する方法。	—
	コロニー	ころにー	空間的に集合している同一種または複数種の生物個体。生態学的には、群れ、群集、個体群に用いられる。	①
さ	根出葉	こんしゅつよう	植物体の主軸において、胚軸を除く節間の伸長が抑制される成長様式のこと。全ての葉が1箇所（シュート頂の周辺）から放射状に出て並ぶように見える。それらの葉をロゼット葉あるいは根出葉とも呼ぶ。	①
	在来木本	ざいらいもくほん	本来その地域に生育している木本。	—
	蒴果	さくか	2枚以上の心皮から構成された子房が果実へと成熟するにつれて果皮が乾燥するとともに裂け、種子が散布されるような果実。	①
	挿し木	さしき	植物の無性繁殖法（栄養繁殖法）の一種で、母植物体の一部を母体から切り離して、これを砂または土壌中に挿し、不定根を発生させ独立の植物体とする方法。挿木は栄養繁殖であるから、母植物と同一の遺伝的形質をもつ個体が得られる。	①
	挿し穂	さしほ	挿木に用いる母体の一部を挿穂（穂木）といい、枝・根・葉などが用いられ、それらを用いる方法をそれぞれ枝挿・根挿・葉挿と呼ぶ。	①
	産卵母貝	さんらんぼがい	卵を産み付ける貝。	—
し	自主アセス(自主的な環境影響評価)	じしゅあせす(じしゅてきなかんきょうえいきょうひょうか)	事業規模が環境影響評価法に該当しないものの、自主的に環境影響評価を行うこと。	—
	自然遷移	しぜんせんい	生態遷移。ある一定の場所に存在する群集が、時間軸にそってつぎつぎに別の群集にかわり、比較的安定な極相へ向かって変化していくこと。	①
	自然度(自然度判定)	しぜんど(しぜんどはんてい)	自然的な要素がどの程度残存しているかを表す指標をいい、各種の緑地の残存率を用いる場合がある。また、緑地を自然的要素の強さによって区分した指標をさす場合もある。	①
	ジベレリン処理	じべれりんしゅり	植物ホルモン的一种であるジベレリンを添加し、種子の発芽誘導を行う処理。	—
	社会寄生種	しゃかいきせいしゅ	宿主となる同種もしくは多種のコロニーを搾取、利用して繁殖を行う種。	—
	樹冠	じゅかん	クローネ。樹木の枝や葉の茂っている部分。	①
	樹高	じゅこう	樹木の高さ。地表面から主幹の先端までの長さ。	⑤
	蒸散	じょうさん	高等植物の体内の水が、水蒸気となって、空气中に排出されること。通常、葉の気孔、水孔、あるいはクチクラを通して行われる。	⑮
	殖芽	しょくが	水草の体の一部が、越冬や栄養繁殖の手段として、形態的または生理的に特殊化したもの。	⑱
	植栽	しょくさい	草木を植えること。	⑥
	植生	しょくせい	ある区域の地表を覆って生育している植物の総称。土地利用計画において自然的条件を示す指標の一つとして用いられる。	⑤
	植被率	しょくひりつ	定量的な群落速度の一つで、各種類の植物の地上部が地表を被覆する割合をいう。種類ごとの被覆ではなしに全体としての植物被覆の割合は植被率と呼ばれる。	①

参考資料 <用語集>

頭文字	用語	よみがな	語句説明	出典資料 番号
す	水質基準	すいしつきじゅん	水を利用する際の適合性を判定する基準。	⑥
	巣外育雛期	すがいいくすうき	雛が巣立った後、巣の近くで親鳥からの給餌を受けながら成長する時期。	—
そ	相対照度	そうたいしょうど	全天の照度に対する林内の照度の割合。	—
	総苞	そうほう	花序の基部にあって、若い花序ではそのまわりを取り巻いて包む多数の苞葉（一つの花、あるいは花序を抱く小形の葉）の集団をいう。	①
	ソーラス	そーらす	「孢子囊群（ほうしのうぐん）」に同じ。	—
	疎林	そりん	疎生群落（個体密度が小さいため、個体と個体が直接に接することがないまばらな群落）の一例。樹冠は互いに接しないが樹木の間隔が樹冠幅よりも小さい場合、すなわち樹木の被度が少なくとも40%以上の場合を指す。	①
た	立入防止柵	たちいりぼうしさく	道路内への立ち入りを防ぐための柵。	—
	多年草	たねんそう	多年生植物。2年以上個体が生存する性質をいう。複数年生きた後で1回繁殖して枯死する場合も多年生である。	①
ち	地域個体群（個体群）	ちいきこたいぐん（こたいぐん）	ある空間を占める同種個体の集まり。個体群の内部では、交配や種々の相互作用を通じて個体間に密接な関わりがあり、同種の他の個体群とは多かれ少なかれ隔離された地域集団。	①
	地域生態系	ちいきせいたいけい	ある地域に存在する物理的要素と生物的要素からなる生態系。	—
	着生木	ちゃくせいぼく	植物が岩石・樹木など他物に付着して生育すること。	⑥
	着底場	ちゃくていば	浮遊生活している幼生が、変態して成体となるために着底する場所。	—
	抽水植物	ちゅうすいしょくぶつ	浅水に生え、根は水底の土壌中において葉や茎の一部または大部分が空中に伸びている生活系の植物の総称。	①
	調査圧	ちようさあつ	現地調査により、調査地域に生息・生育する生物へ与える負の影響（個体採取、踏みつけ、繁殖阻害など）。	—
	鳥獣特別保護区／鳥獣保護区	ちようじゅうとくべつほごく／ちようじゅうほごく	環境大臣または都道府県知事は野生鳥獣の保護繁殖のために必要と認めるときは、鳥獣保護区を指定することができ、この保護区内での野生鳥獣捕獲は禁止されている。また、鳥獣保護区のうち特別保護地区として指定された区域では、工作物の新築等の行為が許可制とされており、野生鳥獣の生息地の保護が図られている。	⑧
つ	ツボカビ症	つぼかびしょう	正式名称「カエルツボカビ症」。両生類の皮膚に含まれるケラチンを分解して生きている真菌（カビ）により、体内の浸透圧の調整や皮膚呼吸が妨げられる病気。発症から数週間で死に至る場合がある。	⑨
て	ディスプレイ	でいすぷれい	誇示飛翔、示威飛翔ともいう。テリトリーの占有を宣言するためや、求愛のために行う特殊な飛翔。深い波を描くように飛んだり、急降下したり、巣の前で8の字を描くように飛ぶなど、種によって一定の様式がある。様式化されたディスプレイ・フライトをスカイ・ダンスともいう。	⑩
	テレメトリ調査	てれめとりちようさ	動物の体に電波発信機（テレメーター）を取付け、その電波を受信・解析することによって遠く離れたその動物の位置、行動、状態などを調べる方法。	①
	展葉	てんよう	発芽した葉が開くこと。	—
と	頭花	とうか	短い軸の先が円盤状になり、その上に多くの花卉が集まって1つの花のようにみえるもの。	⑦
	頭胸甲	とうきょうこう	甲殻類の頭部と胸部が癒合した部分。	—
	登はん	とうはん	山や高所によじのぼること。	⑥
	胴吹き	どうぶき	幹や枝の途中に芽が付くこと。	—
	通し回遊魚	とおしかいゆうぎょ	淡水魚の場合には、生活史において必ず海と淡水域の双方を規則的に利用して生活する発育段階を有する魚。	②
	特定外来生物	とくていがいらいせいぶつ	生態系等に係る被害を及ぼし、又は及ぼすおそれがあるものとして、外来生物法によって規定された外来生物。生きているものに限られ、卵、種子、器官などを含む。同法で規定する「外来生物」は、海外からわが国に導入されることによりその本来の生息地又は生育地の外に存することとなる生物を指す。	⑩
	特別採捕許可	とくべつさいほきよか	試験研究等のために水産動植物の採捕を行う場合に、各都道府県の漁業調整規則の規定に係る制限又は禁止等を適用除外して、採捕を行うことができるようにする許可。	⑪

参考資料 <用語集>

頭文字	用語	よみがな	語句説明	出典資料番号
と	土壌シードバンク (埋土種子集団)	どじょうしーどばんく(まいどしゅししゅうだん)	土壌中に埋まっている、多数の生きた発芽可能な種子。	⑱
	土壌動物調査	どじょうどうぶつちょうさ	自然環境復元状況調査等、生態系の三要素の一つである分解者の状況を調査するときに行われることが多い。土壌動物(大型～小型)・微生物等の種類、量や活性度等で判断されるが明確な基準はない。大型土壌動物は、地表面・土壌サンプリングにより目視で種類と量を特定する。小型土壌動物では、土壌中のダニ・トビムシ類の種類・量をツルグレン装置で抽出し顕微鏡等で同定する。微生物では、生活活動に伴う二酸化炭素発生量で活性を調べる。土壌の有機炭素・窒素量との関連が想定される。	⑧
に	日照障害	にっしょうそがい	建物や高架道路等の都市施設の建設によって住宅等の日照が阻害されること。	⑤
ね	根株	ねかぶ	新しいシュートを作る能力をもつ木の幹または常に萌芽枝が出る木の根本。	⑫
	根鉢	ねばち	植物の根が張り、根と土がかたまりとなっている部分。	—
は	バイオアッセイ	ばいおあっせい	生物検定ともいう。生物の生死や発育・生長に対する化学物質の作用を定量的に測定するため、生物自体の反応を標識として用いる方法。	⑳
	繁殖ステージ	はんしょくすてーじ	求愛、抱卵、育雛などの生活のサイクル。	—
ひ	被圧	ひあつ	植物が成長することにより、近接する他の植物へ与える負の影響(日照不足による生育不良など)。	—
	ビオトープ	びおとーぷ	特定の生物群集が生存できる環境条件をそなえた地理的な最小単位。環境復元で創造された生物空間を示す一般用語として用いられる場合が多い。	①
	ヒコバエ	ひこばえ	伐った草木の根株から出た芽。またばえ。	⑥
	披針形	ひしんけい	刀針に似た形。すなわち、細長くて先端がとがり基部のやや広いもの。植物の葉についていう。竹の葉の類。	⑥
	被度	ひど	定量的な群落測度の一つで、各種類の植物の地上部が地表を被覆する度合いをいう。	①
	標識再捕獲法	ひょうしきさいほかくほう	記号放逐法、マーキング法。複数の標識した個体を放し、その再捕データから個体群の移動・分散の過程や範囲を推定する、あるいは直接数えることが困難な動きの大きい動物などの個体数を推定する方法。個体数推定の最も簡単な方法にピーターセン法(Petersen method)リンカン法(Lincoln index)等がある。	①
ふ	ファンネルトラップ	ふあんねるとらっぷ	フェロモン用捕虫器。フェロモンを用いて虫を誘引する罠。	—
	フィールドサイン	ふいーるどさいん	動物の生息が確認できる糞や足跡、食痕、巢等の痕跡。	—
	風倒木	ふうとうぼく	風で倒れた木。	⑥
	伏流	ふくりゅう	地下水との明確な区別はないが、通常は扇状地や火山灰地域あるいは石灰岩地域等の透水性の高い地中を流れる流速の比較的速い流れ。	⑤
	浮遊物質(SS)	ふゆうぶつしつりょう(えすえす)	水中に懸濁している不溶解性物質の量。2mmのふるいを通過し、1μmのろ過材上に残留する物質。懸濁物量とも言う。	⑬
	浮遊幼生	ふゆうようせい	浮遊している幼生。底生動物の中には、卵や胚を水中に放出し、幼生期は浮遊生活を送ってから基質に付着し、成体に変態する種がいる。	—
	分散	ぶんさん	生物が、生まれた場所、あるいは現に生息している場所から動いて散らばること。個体群内の個体が、生息地内または生息地間に散らばる過程。	①
ほ	萌芽	ほうが	幹が伐採されたり折れたりした後に、株や根から芽が吹きだすこと。または吹きだした芽、新梢。	⑦
	胞子囊群	ほうしのうぐん	ソーラス、囊堆。数個ないし多数の胞子囊が集合した構造体。	①
	苞葉	ほうよう	苞。一つの花、あるいは花序を抱く小形の葉。花あるいは花序を抱く葉が普通葉と同様の場合には、これを苞葉とは呼ばない。	①
	匍匐	ほふく	地表を這うように長く伸びた茎で、節から根を出したり、芽を分けて繁殖させたりする。カワラサイコ、ツルヨシなどに見られる。	②

参考資料 <用語集>

頭文字	用語	よみがな	語句説明	出典資料 番号
ま	埋土種子	まいどしゅし	発芽力を保持したまま、土の中で休眠状態にある種子。	⑬
	マクロベントス	まくろべんとす	1mm以上の大型の底生動物。	—
	間引き	まびき	樹木の密度管理のために行う樹木の伐採作業で、植栽樹種を主体に除去する作業。法面樹木の保育管理の方法の一つ。	⑧
	マルチング	まるちんぐ	播種、植栽物の養生方法の一つ。土壌水分の蒸発抑制、地温保持、雑草侵入抑制、土壌侵食防止等を目的として根元まわりの土壌表面を覆う方法をいう。	⑤
	マント植生(マント群落)	まんとしよくせい (まんとぐんらく)	林縁部にみられる灌木やツル植物からなる群落。林内への通風や日射を防ぎ、湿度や温度等の条件を整えて、樹木の健全な発育を支える環境条件を保護する役割を果たす。	⑤
み	実生	みしょう	芽生え。種子植物の種子から発芽した幼植物。	①
	ミティゲーション (mitigation)	みていげーしょん	新たな開発によって生じる影響に対する緩和措置。	—
め	鳴囊	めいのう	多くの無尾両生類の雄において、薄膜・球形の囊として体外に膨らむ能力をもつ左右の咽頭壁。鳴く際にこれを膨らませて、共鳴器として役立たせる。	①
	メッシュプロット	めっしゅぶろっと	縦横に規則的、もしくはほぼ規則的に引いた格子線の交点あるいは区画配置のこと。	⑤
や	屋敷林	やしきりん	家屋の周りに植えられた林。防風や防雪等を目的としている。	—
ゆ	優占種	ゆうせんしゅ	群落の性格を決定し、代表する種類。主として植物に用いるが、動物に用いることもある。	①
	誘導植栽	ゆうどうしよくさい	目的の場所へ動物を誘導するための植栽。	—
よ	葉腋	ようえき	葉が茎に付着する点の、すぐ上の部位。多くの側芽は葉腋に生じ、分枝の行われる場所といえる。	①
	葉状体	ようじょうたい	茎と葉の区別がない植物体。茎葉体と対する。	①
	幼生	ようせい	動物の個体発生において、胚と成体の中間に成体とは著しく異なり、しかも多くの場合、成体とはちがった独立の生活をjする時期。	①
	要注意外来生物	ようちゅういがい らいせいぶつ	外来生物法に基づく飼養等の規制が課されるものではないものの、生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、取扱いに注意し適切な対応を求められていた種。なお、「要注意外来生物」は、「生態系被害防止外来種リスト」の選定(2015年3月26日)をもって廃止され、「生態系被害防止外来種」に変更された。	⑭
	翼開長	よくかいちょう	翼の前縁をほぼ直線になるまで伸ばして測定した両翼先間の長さ。翼開張ともいう。	⑩
ら	ラジオテレメトリ 調査	らじおてれめとり ちようさ	生物に電波発信器を取り付け、電波受信機で受信し、位置を特定することで特定個体の行動をとらえる調査手法。	—
	卵囊	らんのおう	卵が産出されるまでの包被物のうち、強くて囊状をし、卵膜にあたるもの。	①
り	粒度	りゅうど	土を構成する土粒子の粒径の分布。粒度、粒度組織ともいう。	⑤
	緑陰	りよくいん	青葉の茂ったかげ。こかげ。	⑥
	緑陰感受性	りよくいんかん じゅせい	葉を通過して変化した光の波長分布(緑葉透過光)によって生じる発芽阻害や種子の休眠誘導などの現象の生じやすさ。	—
	林縁	りんえん	樹林と開放空間との境。	—
	鱗茎	りんけい	茎の基部や走出枝の先に多肉化した多数の低出葉が短い茎を囲み地下貯蔵器官となったもの。例えば、チューリップやタマネギ等。	①
	林床	りんしょう	森林の樹下(地表面)の環境。森林の種類や林相の違いで草や低木、小動物、菌類などが独特の生態系を構成する。	⑥
	林相	りんそう	林の樹種構成、樹冠のタイプ、樹齢、樹木の密度、樹高あるいは樹木の生育状態等さまざまな要素で決まる林の姿、ありさま。	⑤
ろ	肋条	ろくじょう	サンショウウオの腹部にある複数の筋。	—
	ロゼット	ろぜっと	植物体の主軸において、胚軸を除く節間の伸長が抑制される成長様式のこと。全ての葉が1箇所(シュート頂の周辺)から放射状に出て並ぶように見える。それらの葉をロゼット葉あるいは根出葉とも呼ぶ。	①

参考資料 <用語集>

頭文字	用語	よみがな	語句説明	出典資料 番号
D	dB 値 (音圧レベル)	でしべるち (おんあつれべる)	音圧レベル、音響出力レベル、音の透過損失、振動レベル等を表す単位。音圧レベルとは、ある音圧の実効値と基準音圧の比の 2 乗の常用対数の 10 倍。基準音圧は $20 \mu \text{Pa}$ 。	⑤
	DO (Dissolved Oxygen)	でいーおー	溶存酸素。水中に溶解している酸素のことで、河川や海域での自浄作用や、魚類等の水生生物の生息には不可欠なものである。	⑬
E	EC (Electric Conductivity)	いーしー	水溶液中に溶出してくる塩類イオンの解離程度、すなわち単位 (1cm) 当たりの電気の通しやすさを測定することにより塩類の量を推定する。緑化地は人工造成地が多いので、肥料成分特に窒素分の有無の確認やその他の塩類の有無の調査に用いられることが多い。	⑧
G	GPS (Global Positioning System)	じーびーえす	全地球測位システムで、人工衛星を用いて測定する。同時に 4 個以上の衛星から送信される衛星自身の軌道や時刻等の情報より三次元位置座標を決定できる。	⑤
L	LC <sub>50</sub> (Lethal Concentration <sub>50</sub> )	えるしーごじゅう	50%致死濃度。化学物質によって曝露された生物集団の 50%が死亡する濃度 (水質、ガス濃度)。	—
P	PDCA サイクル	ぴーでいーしーえ ーさいくる	Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Action (改善) の 4 段階からなるサイクルを繰り返すことによって、業務等を継続的に改善しながら進めるという考え方。	—
	Petersen 法	ぴーたーせんほう	ピーターセン法 (Petersen method)。標識再捕法。個体数推定の最も簡単な方法で、s 個体に標識をつけて放し、その後の時点で捕えた n 個体中 m 個体が標識のある再捕個体であれば、 $N=s \cdot n/m$ として総個体数を推定するものである。	①
	pH (Potential Hydrogen)	ぴーえいち	水素イオン濃度指数。mol/L 単位で表した水素イオン濃度 $[\text{H}^+]$ の逆数の常用対数として定義される ( $\text{pH}=-\log[\text{H}^+]$ )。pH=7 を中性、pH < 7 を酸性、pH > 7 をアルカリ性といい、多くの生物の生育至適 pH は中性付近である。	⑤
S	SS (Suspended Solid)	えすえす	「浮遊物質量 (ふゆうぶつしつりょう)」に同じ。	—

## 参考資料 <用語集>

[出典等一覧]

番号	資料名	URL
①	巖佐庸 倉谷滋 斎藤成也 塚谷裕一「岩波 生物学辞典 第5版」(岩波書店, 2013)	
②	財団法人リバーフロント整備センター「川の生物図典」(山海堂, 1996)	
③	環境省 自然環境局 野生生物課「猛禽類保護の進め方」(改訂版)	<a href="https://www.env.go.jp/press/files/jp/22992.pdf">https://www.env.go.jp/press/files/jp/22992.pdf</a>
④	清水建美 梅林正芳 互理俊次「図説 植物用語事典」(八坂書房, 2001)	
⑤	土木学会「土木用語大辞典」(技報堂出版, 1999)	
⑥	新村出「広辞苑 第五版」(岩波書店, 1998)	
⑦	外来種影響・対策研究会「河川における外来種対策の考え方とその事例」(財団法人リバーフロント整備センター, 2003)	
⑧	道路緑化保全協会「道と緑のキーワード事典」(技報堂出版, 2002)	
⑨	環境省 自然環境局 野生生物課 外来生物対策室「カエルなど両生類に感染するカエルツボカビについて」	<a href="https://www.env.go.jp/press/7979.html">https://www.env.go.jp/press/7979.html</a>
⑩	森岡照明「図鑑 日本のワシタカ類」(文一総合出版, 1998)	
⑪	神奈川県 環境農政局 農林水産部水産課「神奈川県 特別採捕許可の申請について」	<a href="https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/cnt/f533191/p914559.html">https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/cnt/f533191/p914559.html</a>
⑫	Michael Allaby 駒嶺穆(翻訳)「オックスフォード植物学辞典」(朝倉書店, 2004)	
⑬	国土交通省 水質連絡会「河川水質試験方法(案) 2008年版」	<a href="https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kasen/suishitsu/houhou.html">https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kasen/suishitsu/houhou.html</a>
⑭	環境省 自然環境局 野生生物課 外来生物対策室「日本の外来種対策 注意外来生物リスト(廃止済)」	<a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html">https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/caution.html</a>
⑮	日本緑化工学会「緑化技術用語辞典」(山海堂, 1990)	
⑯	環境省 自然環境局「日本の外来種対策 用語集」	<a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/yougo.html">https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/yougo.html</a>
⑰	国土交通省 国土数値情報ダウンロードサイト「国土数値情報ダウンロードサービス」	<a href="https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/ksj.html">https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/ksj.html</a>
⑱	環境省 自然環境局 野生生物課 外来生物対策室「日本の外来種対策 特定外来生物の見分け方(同定マニュアル) 植物」	<a href="https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual.html">https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual.html</a>
⑲	沼田真「生態の事典」(株式会社東京堂出版, 1993)	
⑳	環境アセスメント研究会「環境アセスメント基本用語事典」(株式会社オーム社, 2000)	

この他、道路・河川に関する用語については以下を参照されたい。

分野	資料名	URL
道路	国土交通省 関東地方整備局 首都国道事務所「“みち”に関する用語辞典」	<a href="https://www.ktr.mlit.go.jp/syuto/syuto_yougo001.html">https://www.ktr.mlit.go.jp/syuto/syuto_yougo001.html</a>
河川	国土交通省 国土技術政策総合研究所「河川用語集～川のことば～」	<a href="https://www.nilim.go.jp/lab/rcg/newhp/link/yougo/">https://www.nilim.go.jp/lab/rcg/newhp/link/yougo/</a>
河川	国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所「用語の解説」	<a href="https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo_index023.html">https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo_index023.html</a>
河川	国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部「河川用語集」	<a href="https://www.hkd.mlit.go.jp/ob/tisui/tisui_jigyou/yougosyu/kasenyougo_index.html">https://www.hkd.mlit.go.jp/ob/tisui/tisui_jigyou/yougosyu/kasenyougo_index.html</a>